

都学歯 歯 叢 刊 広 報

目 次

● 会長メッセージ	川本 強	2	3
● 一つの間にか「広報第100号」			
● 創刊号から携わってきたー	関根正行	4	5
● 歴代編集委員にきく		6	5
● トピックス 第2回予算特別委員会／平成22年度 学校保健（学校歯科医）研修会／平成22年度 学校歯科医基礎研修会			
● 第45回東京都学校歯科保健研究大会		8	7
● 平成23年度「東京都学校歯科保健優良校表彰の応募」と「歯の作文募集」に関するご協力をお願い		13	12
● 矯正専門医としてお話しします その2			
● 地区ニュース 荏原／杉並／練馬／板橋／ 麻布赤坂／中野		14	15
● トピックス 学術研究委員会／ 第64回評議員会・総会		15	16
● 会務報告／計報		16	16

東日本大震災が3月11日（金）に発生し、未曾有の被害が報告されております。東京都学校歯科医会の先生方の診療所、ご自宅は如何でしょうか。また親戚の方やお友達の方々と連絡のつかない先生もいらっしゃる事と思います。被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。死者・行方不明者は合わせて2万7千人を超え、いくつかの町が町ごとなくなるというあまりの被害の大きさに言葉であらわすことができませんが、私たちは少しでも協力して早い復興をお祈りします。



都内発祥地シリーズ ⑥9

『東京水道発祥の地』

「淀川浄水場」は明治23（1890）年東京府南豊島郡淀橋町の34万 m²の敷地に着工。明治31（1898）年に一部が完成し、神田・日本橋地区への給水を開始して、東京の近代水道が誕生した。ここは玉川上水の水を沈殿・濾過して、200万人の市民に供給可能な規模を有し、のち東村山浄水場が出来る、昭和40（1965）年までの60数年間使用されていた。写真は淀川浄水場で使われていた「内径1000mm 蝶型弁」。

（所在地 新宿区西新宿一丁目）

写真と文 関根正行



社団法人 東京都学校歯科医会

〒102 東京都千代田区九段北4-1-20
-0073 TEL.03-3261-1675

http://www.tasd.or.jp

E-mail tasd@tasd.or.jp

発行人／鈴木 博

印刷／一世印刷株式会社

発行100号記念号

100

2011. 3

会長メッセージ

東京都学校歯科医会の温故知新

社団法人東京都学校歯科医会

会長 川 本 強



水を飲む時、その井戸を掘った人のことを忘れてはいけないと言われます。暫し東京都学校歯科医会の故きを温ね新しきを知って頂きましょう。

草創期

東京都学校歯科医会、いわゆる都学歯が創設される前の黎明期のことが偲ばれるのは大正元年「歯科学報」8月号に記載されている論文です。中島左一先生が投稿された「小学児童ニオケル歯科学的検査」というタイトルで、東京九段精華小学校の歯科検査を行ったレポートです。当時のことですから数え年で7歳から16歳までの生徒249名の歯科検診の結果でした。89%がデンタルカリエスを有しており、健全な者はわずか26名、処置を受けていた者35名で15%とのことでありました。児童・生徒の歯科検診のレポートとして論文の形式をとった最初のものといえましょう。

大正4年、大正天皇の即位大典が行われましたが、御大典記念ということで東京府立第3高等女学校（現在の都立駒場高校）において歯科診療室を校内に設けていわゆる校内歯科治療を始めました。小林校長の要請で歯科医師の西原一男先生が随時出張して治療を行うというものでした。毎週、月・水・金の午後1時から4時まで、一日10～20人の診療をされたとのこと。このような活動に刺激されて、府立第1中学校（現在の日比谷高校）・府立第4中学校（現在の戸山高校）が校内歯科診療を行うようになったとのことでもあります。高等女学校、中学校などにおける学校歯科のスタートがこのように学校側からの発案で始まっていることは大変興味深いことでもあります。

では、現在の東京都内において学校歯科医会としての形態はいつごろから形成されてきたのでしょうか。ものの本によりますと大正10年、それまで市や町から一時的に委嘱されるという形で行う歯科検診がほとんどで、学校歯科医または歯科校医という呼称は正式のものとしてはみられません。そのような時期に東京本郷区で画期的な組織編成がなされたのです。歯科医師会が推薦した歯科医師を区長が学校歯科医として指名すると

いう画期的なことで、大正10年5月に歯科検診と治療とを委嘱された歯科医師が集まって本郷区歯科校医会という団体を作ったのです。会則は21条から成っており、初代理事長には高橋直太郎先生が就任されました。その後各府県で県令ができるようになり、少しずつ学校歯科医会としての活動が始まったのです。県レベルで学校歯科医会が初めて出来たのは大正15年9月の佐賀県でした。昭和2年には東京市学校歯科医会、名古屋市学校歯科医会、埼玉県学校歯科医会が続いて創設されております。学校歯科医としての制度・身分は、昭和6年「学校歯科医及び幼稚園歯科医令」公布に始まりますが、第2次世界大戦を境に昭和22年の新憲法・新教育基本法・学校教育法の施行により義務教育6・3制が制定され、小学校と同時に新制中学校および新制高校にも学校歯科医が置かれるようになりました。そして、昭和23年になって現在の「東京都学校歯科医会」が新制度のもとに再活動を始めたのです。平成21年2月19日に東京都学校歯科医会設立60周年法人化30周年記念式典を挙行させて頂きましたが、先生方にはまだ御記憶に新しいところと思われます。

第1回全国学校歯科医大会（現在の全国学校歯科保健研究大会）が開催されたのは昭和6年4月6日で、東京市芝公園内の日本赤十字社参考館講堂でした。その前年の昭和5年4月には大阪において打ち合わせが行われ、開催事務一切は東京市学校歯科医会に委ねることで合意されておりました。準備委員長には東京市教育局長であり、東京市学校歯科医会会長であった藤井利誉先生が就任され、大会会長は当時八十歳以上の三宅博士であったとのことでもあります。日本歯科医師会会長血脇守之助先生の感慨無量の挨拶や、会議開始が午前8時であったこと等から察するに、当時の学校歯科医の先生方の心意気が伝わってまいります。因みに昨年の第74回全国学校歯科保健研究大会まで、東京都が開催地となって協力したのは、第1

回 昭和6年，第2回 昭和7年，第5回 昭和10年，第13回 昭和18年，第19回 昭和30年，第29回 昭和40年，第37回 昭和48年，第45回 昭和56年，第60回 平成8年，計9回に及んでおります。

そして今

現在，東京都学校歯科医会は6ブロック，53地区，会員数2,000名を超える社団法人組織と成長致しました。社団法人東京都学校歯科医会の設立目的は定款に謳ってあります通り，学校歯科保健に関する調査を行い，次代の国民の健全な発育発達に寄与することにあります。この目的は未来永劫変わることはありません。不易であります。

役員構成は理事者17名，監事2名で，事業が多岐に亘る都合上役務を5部門に分割しております。すなわち，総務部・事業部・学術部・渉外部・監査の5部門であります。各部門の代表的な職務を挙げてみましょう。

総務部：総務，庶務事項全般

会計業務

新法人制度の調査研究

学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

会誌・広報の発行

事業部：学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

学校歯科保健教育，保健管理の実践及び保健思想の普及向上

歯の衛生週間への協力

ブロック別対応

私立学校対応

学術部：学校歯科保健に関する調査研究

学校歯科保健に関する普及

領域別対応（幼・小・中・高・特別支援）

渉外部：東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

日本学校歯科医会・他府県学校歯科医会との連携

行政機関との連携

監査：会計，会務に関する監査

ご覧になっている100号記念広報誌を代表とする都学歯発行の刊行物の多くは，会誌・広報委員会の叡智の結晶であります。近年は会員からのご要望でホームページも充実しまして多くの情報をダウンロード出来るようになりました。これも会誌・広報担当の役員・委員会の皆様のご努力の賜物であります。

毎年恒例となっております東京都学校歯科保健研究大会は，事業部が主となって開催されます対

外的に最も大きくアピールされる大会であります。また，昨年沢山の先生方に参加して頂きました日本学校歯科医会生涯研修制度基礎研修会は事業部，学術部の共同事業でもありました。

学術部は2年間かけて調査・研究を行い，その結果を冊子にしまして会員の先生方に配布し，先生方が児童・生徒の学校歯科保健に役立てて頂けるように活動いたしております。また，昨年東京都歯科医師会との会合を持ち，虐待について共同研究を行うことで一致を得ているところです。

個人では成しえない組織と組織の契約事業がいくつも挙げられますが，これらに関しましては渉外部が対応しております。都学歯にとって代表的な共催組織としては，東京都教育委員会が挙げられます。毎月定例の会合に都教委より歯科担当課長にオブザーバーとしてご臨席いただいていることに感謝すると共に，これからも良好なパートナーシップが存続して行くことを願っております。

現在これら各部の活動により大きな成果をあげているものと自負いたしておりますが，このチームワークがあってこそその都学歯でして，ご助力を頂いている各部門の先生方の才幹により，国内において歴史的にも実績的にも誇れる東京都学校歯科医会が永続してくれることを切に願っております。

輝く未来

孔子に一人のお弟子さんが尋ねたそうです。国を作るのに，まず何にお金をかけるべきでしょうか，組織でしょうか，軍隊でしょうか，教育でしょうか。迷わず孔子は答えたそうです「教育である」と。

紀元前も現在も変わりません。心身共に健全な次世代の国民，すなわち現在の心身共に健康な児童・生徒無くして明日の国家は存在致しません。我々学校歯科医は口腔保健教育を通して，その教育の一翼を担っていると考えております。子供達が健全に育つよう教育するには，まず私たち自身が健全であり，子供達に与える栄養（理念・知識・実践という栄養）を持っていなければなりません。範たる大人であるべく私達学校歯科医が勉勵することで，児童・生徒の輝ける未来を招くと共に，それが学校歯科医の輝ける未来をも伴ってくるものであるなら，いま現在の私達の責任の重さに緊張を覚えざるを得ません。

今というのは「輝く未来」の入り口なのではないでしょうか。

いつの間にか「広報第100号」

－創刊号から携わってきて－

いつの間にか「広報」が100号になっていた。思い起こせば今から20数年前、当時の咲間武夫会長（＝写真①）より広報委員会に対して、「会誌」とは別に「広報」を出したいが考えてくれ…という打診があった。（以下の文中には、都学歯60周年の記念誌に掲載した拙文の内容と同じものが入ってくるが、歴史なのでお許し願いたい。）

当時は「会誌」が年2回発行されていただけだった。これでは会員に対しての情報提供が遅くなってしまう。そこで「広報」を新設し、年4回ぐらい出したいと思っている…とのご意向だった。

委員会は動揺した。年2回でも大変なのに更に4回発行が加わる。しかし咲間会長は大変熱心に理由を述べられた。

1. 発行回数を増やしてキメ細かく情報を伝えたい。
2. それには分厚いものではダメだ。8ページぐらいのパンフ的なもの。
3. 文字を少なくして、グラビア誌のように「読むより見る」ものにならないか。例えば「アサヒグラフ」のようなものと具体的に示された。

直ちに委員会ではディスカッションを重ね、手探りのうちに、まずは執行部の先生方によって編集された、B5・8ページの「都学歯広報 創刊号」が昭和60（1985）年6月に誕生した。（＝写真②）この時私は委員にはなっていたが、直接編集には携わってはいない。

創刊号表紙はプロに依頼したもので、編集後記には中村、石川、清水、浅野各先生のお名前が連なる。

刷り上った創刊号を「たたき台」にして、委員会でのディスカッションが続いた。

第2号・昭和60年9月（1985）発行以後は、とにかく「定期発行」に努力しようと、執行部の先生方の奮闘は続く。表紙は「歯の衛生週間入賞ポスター」だった。この作品制作者の杉並区立済美小の山下君は、現在30過ぎの青年になっていることだろう。第3号の表紙は石川行雄先生の「富士山」。第4号の表紙は「第20回 都学歯大会開会式」。

ここで1年が経過した。当時の編集後記を拝見すると、毎号の記事探し、内容に対する読者の反応等を気にされていた様子が、手にとるように感じられる。

このように、執行部の先生方が苦労を重ねて出来上がった広報に対して、失礼を承知の上で、言いたい放題の意見を述べてきた私に、昭和61年度（1986）から委員長をやってくれという依頼があった。

お引き受けして、まず困ったのが表紙。こう毎回違うものを探していたのでは、とても大変だ。シリーズものにしようと考えた私は、当時から興味があった「都内発祥地シリーズ」。これなら多少はストックがあると提案すると、それにしようと思案理事の梶取先生から依頼があり、加えて以後の、取材を任されてしまった。

新しい委員会が発足し、第5号（昭和61年7月発行・1986）の表紙から「都内発祥地シリーズ① 新聞創刊の地」（＝写真③）が登場し、私の長い表紙人生が始まった。

表紙の絵は原則として、年度初めは「歯の衛生週間・入賞ポスター」、あと3回は「都内発祥地シリーズ」と決まり現在に至っているが、途中「発祥地シリーズ」ばかりが続くのは如何なものか、と委員から意見が出て、第21号（平成2年6月発行・1990）から第24号（平成3年3月発行・1991）までは、毎号「学校活動現場」の画像になった。しかし教室での活動状況の絵は、みな同じようなものとなってしまい、それに学校への取材の大変さも加わって、結局第25号（平成3年6月発行・1991）からは元の姿に戻ることに。1993年（平成5年）「都学歯広



写真①
広報生みの親
故咲間武夫先生



写真②
都学歯広報の創刊号



写真③
都内発祥地シリーズ①
掲載の5号

報」生みの親、咲間武夫先生のご訃報にふれ愕然とする。

年を追うごとに増えてきた原稿のスペース確保と、執行部の先生方の執筆の軽減をも考えて、創刊号から続いてきた「巻頭言」も第37号（平成6年4月発行・1994）を最後に姿を消す。

第40号（1995年1月発行・平成7）から表紙全体のデザインが一新され、現在のものとなった。そして表紙にある発行年号も、「昭和」から「西暦」へと変更された（＝写真④）。

第50号（1997年7月発行・平成9）は「記念号」として、それまでに委員会で活躍された諸先生をお呼びして、座談会を開催し、編集の苦労話やエピソード、そして今までの「読後感」などを語って頂き、2回にわたって掲載した。

このときに出てきたご意見に、「B5」の広報を、世間一般化している「A4」のサイズにしては…だった。このことは、それまでに委員会でも何回か出てきた意見だったが、なかなか踏み切れない案件だった。

創刊以来、経費の関係で「全ページの半分以上がカラーで、半分以上がモノクロ」という変則的紙面が続いてきたが、第68号（2002年3月発行・平成14）から、古い言い方だが「オールカラー・ページ」の紙面となる。それまでにお寄せくださった原稿で、カラーページに掲載された方はよかったが、モノクロページに掲載された方には、何か悪いような気持ちがあった。

2002（平成14）年5月発行の「第69号」（＝写真⑥）から、ようやく待望の「A4」が登場し、紙面のサイズが大きくなった分だけ記事も充実する（写真⑤は68号）。

創刊号から、「8ページ・年4回発行」を続けてきたが、第89号（2007年6月発行・平成19）から「12ページ・年3回発行」に変更された。

発行回数が減ったとはいえ、それまでの年間「8ページ×4回＝32ページ」に対し、「12ページ×3回＝36ページ」となり4ページ増えている。

保存してある創刊号から99号までを改めて縦覧してみると、各年度の記事の変遷、また新しい特別な内容に出来ないか、遅くまで検討していたころが懐かしい。このような形にしたいという当方の要望に、直ちに反応してくださる一世印刷のご協力も忘れることが出来ない。

広報委員会には発足当初は、副委員長が置かれていたが、あるとき急死され、後任の副委員長もまた亡くなるというアクシデントに遭遇した。さすがに委員長としては、3人目をお願いするのは躊躇し、委員会に諮って3人目は置きたくないことを、了承して頂き、現在は副委員長欠員のままなのである。一般記事にはならない逸話である。

現在、定番となっている記事の種目をご紹介しますと、

・トップ記事 ・学校歯科医に必要な知識 ・トピックス ・地区ニュース ・マイレター（地区ニュースとは別に自薦・他薦を問わず、個人で活動されている内容のもの、） ・各種大会予告 ・会務報告 ・訃報 等であるが、何かこれはというものがあれば、事務局までご提案くだされば、委員会でも検討してみたいと思う。

2006年よりニュースメディアとして、広報とは別に「ホームページ」が加わった。しかし、他の会がどのような活動をしているのか、すぐお隣の会のことさえもなかなか伝わって来ないのが現実だと思う。それには「地区ニュース」と「マイレター」の充実だろうか。積極的に先生方の会の活動状況を、お寄せ頂ければ幸いである。

100号が発行され、次号101号からはもっと興味を示していただく紙面となって、「都学歯広報」が永久につづくことを祈ってやまない。



写真④
40号から表紙のデザイン
が一新



写真⑤
B5サイズ最後の68号



写真⑥
69号からA4サイズになった

歴代編集委員にきく

(順不同・敬称略)

羽立賢二

広報委員の拝命を受け、初めて委員会に参加した時、関根正行委員長はじめ委員諸氏、梶取担当理事には大変温かく迎えていただきました。そのことを私なりに勝手な解釈をすれば、都学歯大ベテランの中に30代前半の右も左もわからぬ輩が、あたかも迷える子羊のごとく闖入したことで、保護者的感情と新しい感覚を持ち込んでくれるとの期待感がないまぜになった微妙な感情ではなかったと思います。

しかし、私は先輩諸氏の期待に反して新しい感覚を持ち込むどころか、長い間ほとんど発言することなくいたずらに時間を空費するだけでしたが、正直に申し上げれば、ある事情を抱え心ここにあらずという状況でした。しまいには温厚な梶取担当理事が責任を感じられたのか、私を叱責されたことをつい昨日のことのよう思い出します。今となってはその先生も鬼籍に入られ、直接お詫びすることができません。誌上をお借りし改めてお詫び申しあげ、ご冥福をお祈り申し上げます。

新井桂二

広報誌100号お祝い申し上げます。平成8年から2年間委員をさせて頂きました。多摩の西はずれから月1回、委員長関根先生のご指導で別世界の雰囲気で学校歯科情報を勉強し、委員の先生方と楽しい一時を過ごしました。その経験がその後私処世の拠り所となり、現在都歯野球大会を主宰出来ております。市ヶ谷駅から会館迄の土手の満開桜が鮮明に想い出されます。良い時代でした。都学歯及び広報委員会の益々のご発展を陰ながら祈念いたします。

松田克一

平成16年5月から広報委員の一員として5年間お仕事のお手伝いをさせて頂きました。当時、委員長の関根先生、理事の堀内先生、渡邊先生、委員の北村先生、板倉先生、末高先生、そして私と、7名の編集委員で委員会を開いておりました。都学歯にもITの波が押し寄せていた時でしたので、会員の先生方だけにお知らせするだけでなく、広く皆様にお伝えする必要があることから、広報誌+電子媒体によりホームページを開く

こととなったようでした。それまでは、割り振り表にペンを走らせて記入していき空欄を記事でどんどん埋めていく作業をしていました。今では決定した事柄を、プロジェクターの画面を見ながら、パソコンの達人に打ち込んでもらうだけ。誌面がみるみるできあがっていくのを、腕を組んで見ただけで「なんていい時代だろう」と思いました。

編集委員会に参加できてありがとございました。

米津光将

平成19年度から3年間、会誌・広報委員としてお世話になりました。今でも思い出されるのは、初めて委員会に出席したときです。集まった原稿をみんなで読み合わせして、わかりにくい表現や言い回しをどんどんわかりやすいものへ修正しました。これらの作業を見て、ここの委員となるには高い文章力が求められる、自分にはとてもつまりそうにない。お地藏さんになっているしかないのではないかとすごく心配したことを覚えています。しかし、委員の先生方は気さくで優しい先生方ばかりで、役に立たない私でも快く受け入れてくださいました。自分に何かできることはないかなと考えていたところ、当時担当理事であった渡邊先生より、会議中のPCを操作することを依頼されました。自分としては、文章の修正よりはよっぽどPC操作が気楽で、やっと自分がお役に立てることができたと安堵しました。最も苦労したのは、年次大会の写真整理です。広報委員総出で、記録写真を撮りまくります。全員の写真を集めると千枚を超えるものになってしまいます。それをイベントごとに整理して、ピンぼけしたり手ぶれを起こしたりしてあきらかに使えない物をあらかじめ整理し、翌週の選定会でみんなに選んでもらいやすいように準備することでした。しかし、後から他の委員の先生方ににねぎらってもらったりほめてもらったりして、やりがいを持てたことを思えています。今期より、残念ながら委員を降りてしまいましたが、担当理事の渡邊先生、委員長の関根先生、他の委員の先生方には、本当に仲良くしていただいていたことがとうございました。心よりお礼申し上げますとともに、これからのご活躍を期待しております。

トピックス////

第2回予算決算特別委員会

平成22年11月25日（木）第2回予算決算特別委員会が開催されました。鈴木専務の司会のもと川本会長が挨拶され、出席された委員・役員の紹介の後、協議事項に入り(1)委員長・副委員長の選出がなされ、委員長に粕江の松浦先生、副委員長に城東の山田先生が選出されました。続いて(2)第64回評議員会の議案について話し合わせ、第1号議案（社）東京都学校歯科医会平成23年度事業計画、第2号議案（社）東京都学校歯科



医会平成23年度収支予算について活発な意見が述べられ、承認され、閉会となりました。

トピックス////

平成22年度 学校保健（学校歯科医）研修会

平成22年12月16日（木）13時より日本青年館大ホールにおいて平成22年度学校保健（学校歯科医）研修会が開催された。当日は当研修会の後、同場所で学校歯科医基礎研修会が予定されていたため約500名の参加者により盛況に催された。東京都教育委員会、（財）東京都学校保健会、（社）東京都歯科医師会、（社）東京都学校歯科医会の主催により学校歯科医等に対し、学校歯科保健の諸問題について研修を行い、その指導力を高めるとともに、学校歯科医の職務についての理解と認識を深める事を趣旨として開催された。

（社）東京都学校歯科医会 鈴木博専務の司会で同由井孝副会長が開会を宣言し、東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当 田村道子課長、（財）東京都



学校保健会 鈴木聡男会長そして（社）東京都学校歯科医会 川本強会長の挨拶があり講演に入った。

最初の講演は前述の東京都教育庁 田村道子課長が「学校歯科医の職務について」という演題で講演をなされ、つづいて日本口腔衛生学会理事 高柳篤史先生が「学校保健と行動科学」という演題で講演が行われた。最後に（社）東京都学校歯科医会 小嶋憲副会長の閉会の辞で終了した。

トピックス////

平成22年度 学校歯科医基礎研修会

平成22年12月16日（木）15時15分より日本青年館大ホールにおいて平成22年度学校歯科医基礎研修会が開催された。この研修会は（社）日本学校歯科医会学校歯科医生涯研修制度の一環としての基礎研修会であり、年末で多忙のなか約900名の参加者により盛大に催された。

東京都教育委員会、（社）東京都歯科医師会、（社）東京都学校歯科医会の主催で学校歯科医として身に付けるべき必須かつ基本的な事項を中心に学校歯科保健の諸問題について研修を行い、その指導力を高めると共に学校歯科医の職務についての理解と認識を深めることを趣旨として開催された。

（社）東京都学校歯科医会 由井孝副会長の開会の辞に続き、同 川本強会長の挨拶があり、来賓として御出席の（社）日本学校歯科医会 中田郁平会長に挨拶をいただき講演に入った。

講演は研修項目として4題あり、それぞれを（社）東京都学校歯科医会理事3名と東京都教育庁地域支援



部歯科保健担当 田村道子課長を講師として講演を行った。

- ①「学校歯科保健の概念」 講師 酒井克典理事
- ②「学校歯科保健における保健教育」 講師 東川輝子理事
- ③「学校歯科保健における保健管理」 講師 吉澤雄孝理事
- ④「学校歯科保健における組織活動」 講師 田村道子課長

以上の講演を3時間半にわたりご清聴頂きました先生方に感謝しつつ（社）東京都学校歯科医会 小嶋憲副会長が閉会の辞を述べた。

第45回

東京都学校歯科保健研究大会



川本 強会長の挨拶



司会の鈴木 博
専務理事



由井 孝副会長の
開会のことば



小嶋 憲副会長の
閉会のことば



来賓挨拶
都教育委員会
田村道子課長



来賓挨拶
東京都学校保健会
鈴木聡男会長



来賓挨拶
日本学校歯科医会
中田郁平会長



来賓挨拶
東京都歯科医師会
山崎一男副会長



来賓挨拶
都歯科医師連盟
大曾根正史会長



謝辞を述べる
倉田幸男氏



満員の会場（パノラマ）

と き 平成23年2月10日（木）13時
 ところ 文京シビックホール 小ホール

川本新執行部初の第45回都学歯大会は、その門出を祝福するかのような好天に恵まれ、出足も好調、大盛況のうちに開催されました。



学校歯科保健優良校表彰受賞代表
山口真佐子氏(右)



文部科学大臣表彰代表
佐藤貞彦氏(右)



厚生労働大臣表彰代表
田中秀夫氏(右)



歯の優秀作文表彰代表のお二人



都知事表彰代表 内藤征男氏(右)



東京都教育委員会表彰代表
花香政人氏(右)



ステージ 表彰者席



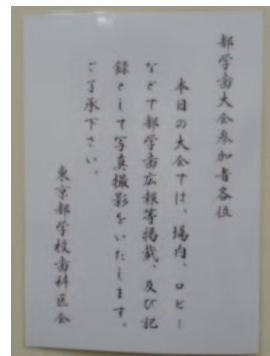
ステージ 来賓者席



満員の客席



入口の立て看板



個人情報時代のポスター



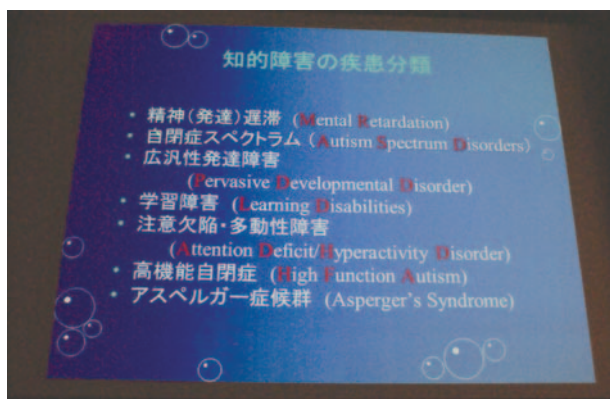
優秀作文発表

「おばあちゃんのような歯をめざして」
台東区立谷中小学校6年 木本恵里花さん=左
「大好きな歯医者さん」
町田市立小山田小学校5年 三谷あかりさん=右



作文講評

千代田区小学校国語教育研究部長 関 哲也氏
(千代田区立千代田小学校副校長) =左端



特別講演 「障がいのある児童への歯科的アプローチ」

東京都立心身障害者口腔保健センター 診療部長 重枝昭広氏



研究発表 平成21・22年度 生活習慣病予防等を目指した歯：口の健康づくり調査研究発表

「よく噛み よく食べ 元気な園児の育成」府中市立小柳幼稚園 副園長 北村眞治氏, 主任 新井尚子氏



音楽 長唄「勸進帳」都立白鷺高校附属中学校

大鼓 大橋八音生, 小鼓 安倍弘朗
三味線 川上哲夫, 松井美乃 の皆さん



音楽 CoCo 華：音楽舞踊アーティストによる
パフォーマンス うたとTAP[のほら・ら・ら]



袋詰め作業が終わると 次は「受付」



優良校，作文の表彰状の受け渡しは大変混雑



本番前の慌ただしひと時・実行委員の打ち合わせ



懇親会

懇親会で乾杯の発声は西連寺愛憲名誉会長



時間に縛られての一日も無事終了，ホッとする懇親会です

平成23年度 「東京都学校歯科保健優良校表彰の応募」と 「歯の作文募集」に関するご協力をお願い

東京都学校歯科医会では事業の一環として、毎年、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象とした「学校歯科保健優良校表彰」を募集しており、昨年度より新たに幼稚園も募集しています。また、小学校・中学校を対象とした「歯の作文」の募集もしております。

学校歯科保健優良校表彰は、各校で毎年春に行われる定期健康診断の結果や学校（園）歯科保健の活動状況を調査票に記入し、東京都学校歯科医会に送っていただきます。送られた調査票を東京都学校歯科医会の審査委員会において、学校（園）歯科保健活動が各学校（園）でどのように取り組まれ、児童、生徒の歯、口の健康づくりがどのように実践されているかを審査いたします。審査につきましては、う蝕処置率よりも各校の学校（園）歯科保健の活動状況の評価に重点を置くようにしております。また、各学校の学校歯科医の活動内容も評価の対象になる部分があります。

これには毎年約600校以上の学校に応募していただいております。優良校は東京都学校歯科保健研究大会で表彰させていただいております。

昨年度より日本学校歯科医会では対象を幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に広げ全日本学校歯科保健優良校表彰を行うことになりました。東京都学校歯科医会では、応募校の中から特に優れた6校（園）を選出し、日本学校歯科医会へ推薦いたします。

この事業の主旨をご理解いただき、一校でも多くの学校（園）が応募されますよう各学校歯科医の先生方のご協力を切にお願い申し上げます。

また、「歯の作文」の募集につきましては、学校歯科保健優良校表彰の主旨と同じく子供たちの歯の健康づくり育成事業の一環として行っております。対象学年は小学校では5年、6年、中学校は全学年となっております。

過去の作文の応募作品数は以下のようにっております。

	小学校	中学校	合計
平成18年度	356	61	417
平成19年度	324	89	413
平成20年度	335	97	432
平成21年度	377	118	495
平成22年度	448	100	548

応募作品は東京都学校歯科医会の審査委員会によって1次審査され、専門家の2次審査へとまわされます。これらの審査を経て選別された優秀作品は、小学校部門から1作品、中学校部門から1作品に絞られ、最優秀作品となります。そして、最優秀作品は毎年2月に開催されます東京都学校歯科保健研究大会の席上において、ご本人に朗読していただきます。また、優秀作品は本会ホームページにも掲載させていただきます。

この事業も子どもたちの歯・口の健康づくりに対する意識を高める手段といたしましては、これに優るものではありません。

事業内容を充分にご理解いただき、各学校歯科医の先生方におかれましては、担当されている学校を訪問する際に、ご協力いただけるよう校長先生、養護教諭に是非お願いしていただけるよう希望いたします。

『学校歯科保健優良校表彰』応募について

●応募締切

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・
特別支援学校

6月末日まで

『歯の作文』募集について

●対象学年

小学校5～6年、中学校全学年

●募集締切

地区教育委員会は、地区学校歯科医会に7月中旬までにお届けください。地区学校歯科医師会
は、7月末日までに東京都学校
歯科医会にご提出ください。

矯正専門医としてお話します その2

専務理事 鈴木 博

広報誌100号の記念すべき時に発行に関わらせていただき大変光栄に存じます。

99号に寄稿しました「矯正専門医としてお話します」の記事は、稚拙な文章にもかかわらず読み頂き、沢山の先生からご意見を頂戴することができました。どうもありがとうございます。不正咬合というテーマとは少しずれるかと思いますが、引き続き、矯正の臨床に携わりながら日頃思っていることを書かせていただきます。題して「フロスを勧めてください」

「もうやっていますよ」という先生は沢山いらっしゃると思います。是非お続けくださるようお願い致します。

前号でご紹介したように叢生など、歯の重なっていた個所にカリエスを認めることは良く経験します。しかしながら、叢生個所ばかりではなく重なっていない綺麗な歯並びのところにも、隣接面に白濁やカリエスが見られることは多々あるのです。

私たちが視診で診断できるのは文字通り目の届くところです。見えにくい隣接面の診査を正確に行うのは難しいものです。矯正治療中に隣接面を直視する機会に恵まれて、ようやく発見することもあります。図1から4は、抜歯症例として矯正治療を始めた2名の高校生の口腔内写真です。2症例とも術前の診査では口腔衛生状態は良好で処置歯も少ない状態でしたが、空隙を作るために抜歯をしたところ隣接面に初期のカリエスが発生していることがわかりました。限られた機器で、集団に対応しなければならない学校歯科健康診断の場では、こういった隣接面のわずかな白濁や初期

のカリエスが見過ごされる可能性はさらに高くなるのではないのでしょうか。

白濁の始まった当初は、おそらく痛みなどの自覚症状がないために、サイレントなまま年月を経てゆっくりと進行してしまい、やがて隣接面のカリエスになってしまうケースが少なくないのではないかと考えています。

DMFTの統計的な調査では隣接面に発生するカリエスを特定できません。したがって実態は明らかにできませんが、年月を経て表面化するサイレント・デ이지ーズと呼ばれるような特徴は、歯周病だけではなく、隣接面のカリエスにも当てはまるのではないかと感じています。

言うまでもなく隣接面カリエスの治療では、感染部位に到達するまで上部から健康な歯質を切削しなければならない場合が多いですし、修復時も綺麗に隣接面を再現するには高い技術が要求されます。かといって咬合面のようにシーラントなどによる予防処置をすることができない部位でもあるため、日々のケアによる予防が大変重要です。

学校歯科保健活動の成果なのでしょう、歯ブラシの使い方は上手になってきているように思いますが、担当する中学校で歯科健康診断の前にアンケート調査をしたところ、習慣的にフロスを使う生徒はほとんどないという結果でした。それ以後、機会があればフロスを勧めるようにしています。

毎日でなくてもよいのです。大人になってフロスなんか一回もしたことがないという人が少なくないように園児・児童・生徒に「フロスを勧めてください」。



図1 咬合時右側面観
(症例1)



図2 上顎右側第2小臼歯
隣接面 (症例1)



図3 咬合時左側面観
(症例1)



図4 下顎左側第1大臼歯
隣接面 (症例2)

歯科研修講演会

荏 原

品川区では例年夏休みに教護教諭部会の希望により歯科研修講演会を開催しています。本年度は荏原学校歯科医会の当番で平成22年7月28日に品川区立荏原第五中学校で開催されました。講師は地区の寺岡康利会員で演題は「歯周疾患について」、34名の先生が参加



され講演後も学校現場での問題点を熱心に質問していました。

第3回杉並区民健康講座

「上手に食べて健康寿命のばそう！」

杉 並

平成22年10月24日（日）、杉並区公会堂にて杉並区歯科医師会主催により第3回杉並区民健康講座が開催されました。今回は、杉並区学校歯科医会も協力し、学校において口腔衛生指導で使用している位相差顕微鏡を持ち込み相談者自身のプラーク内の細菌を観察し



ていただきました。このような活動で口腔ケアの大切さを伝えられたと感じております。

練馬区立小学校長・中学校長との 研修協議会

練 馬

練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会が、今年も9月30日及び10月14日に練馬区歯科医師会館で開催されました。練馬区教育委員会の方々と各小学校長・中学校長及び各学校歯科医の研修会及び懇親会は、三者間の見識と親睦と信頼の連携を高める年に一度の良い機会です。今回も私たちは、学校歯科健康診



断における今後の検討課題などを語り有意義なひと時を過ごす事ができました。練馬区学校歯科医会の一大事業です。
(草柳英二)

学術講演会

板 橋

平成23年2月24日東京都板橋区学校歯科医会と東京都板橋区役所との共催で、学術講演会が東京都板橋区歯科医師会3階会議室で行われました。演題は「フッ化物洗口によるう蝕予防を考える」で講師は東京歯科大学社会歯科学研究室 教授 真木吉信先生でした。出席者は、学校歯科医、養護教諭、板橋区区役所健康福祉センター衛生士など約60名です。講演の後は、活



発な質疑応答が行われ盛況のうちに終了となりました。
(神林秀昭)

お口の健康フェスタ

芝・麻布赤坂合同

平成22年10月23日（土）港区芝歯科医師会と麻布赤坂歯科医師会との共催で高輪区民センターホールにて開催されました。これは、港区が行う8020達成者表彰式に続いて開催されるイベントで、将来の8020達成のためには幼少期から歯を健康に保つ習慣が大切という観点から、港区立小中学校で実際に行われた歯科保健活動を子供たち自身に発表してもらう形式で行われました。本年は小学校4校・中学校1校より発表がありました。小学生からは、ミュータンス菌の特徴をうまく引き出したむし歯予防についての寸劇や歯みがきの歴史・よくかむことについての発表などがありまし



た。中学生からは、歯周病について詳しく調べたことをよくまとめ、生徒各自が1ポイントずつ発言するプレゼンテーションがありました。終了後には教育長から各校におほめの言葉を頂きました。また当日は、発表校以外からも集められた歯・口の健康に関する図画ポスター394点・標語200点をすべて展示し、来場者の目を楽しませました。

平成22年度中野区歯科医師会 歯科校医研修会

中野

平成23年2月23日（水）20時より、社団法人中野区歯科医師会館において、平成22年度中野区歯科医師会歯科校医研修会が62名参加のもと開催された。歯科医師会田中英一会長の挨拶で始まり、学校歯科から大竹徹先生が、「中野区における学校歯科保健の現状」で、定期歯科健康診断疾病異常調査結果（小中学校）、学校医（代表校医・一般校医）の確認、学校歯科医の業務の実施アンケート結果（歯ブラシ指導、講演会の実施等）の報告、校医報酬、第74回全国学校歯



科保健研究大会参加報告がなされた。その後、都学歯から酒井克典先生（事業部・ブロック別対応）が「学校歯科保健の発展のために」学校歯科医に期待することを講演。最後に浜田常二副会長が閉会の辞を述べられた。

学術研究委員会

平成23年3月10日（木）18時より第5回学術研究委員会が開催された。リーフレット作成のため、今回は保健調査票について、学術委員担当校の既存保健調査票を持ち寄り、個への対応を考えた保健調査票の質問項目について検討することにした。個の問題に気付く、客観的な分析が行え、学級担任や養護教諭、学校歯科医が活用できるよう、また健康相談にも繋がればよいと考えている。3月17日には各地区の学術委員の



先生方が集まり委員会を予定していたがこの度の震災により開催が中止された。

第64回評議員会・総会

平成23年3月31日（木）15時より歯科医師会館3階第一会議室において評議員会が開催されました。鈴木専務理事の司会のもと由井副会長が開会を宣言されたのち、点呼により定数に達しました。また3月11日の東日本大地震の被災者に対し黙祷を捧げました。

川本会長挨拶で先の東日本大震災の被害の大きさについてお悔みを述べた後、福島原子力発電所に対しては怒りを覚えると話されました。

次に来賓の東京都歯科医師会浅野紀元会長、東京都歯科医師連盟大曾根正史会長、最後に日学歯総会を抜け出した日本学校歯科医会中田郁平会長の挨拶がありました。議長・副議長の選出では議長に練馬の望月評議員、副議長に麻布赤坂の藤野評議員が選出されました、次に議事録署名人に府中の高木評議員、調布の弘中評議員が選出され議事に入りました。

会務報告を渡邊総務担当理事が行い、次に会計の長沼理事より会計現況報告がなされました。以上の報告承認事項について質疑がなされ、評議員の賛同を経て了承され、議事に移りました。

第1号議案 社団法人東京都学校歯科医会平成23年度事業計画



第2号議案 社団法人東京都学校歯科医会平成23年度収支予算

鈴木専務理事より第1号議案の説明がなされ、また長沼会計理事より第2号議案が説明されたのち、予算決算委員会の松浦委員長が報告をされました。一括上程され、質疑要望を経て、評議員の挙手多数により第1号議案および第2号議案が可決承認されました。

次に協議に入り、定款の変更案について話し合われ、アンケートをとり5月の評議員会に協議として上程することになりました。また当日行われた第77回日学歯総会報告を中村理事が話されました。

最後に小嶋副会長が閉会の辞を述べ終了致しました。

評議員会終了後、引き続き多数の参加を得て総会が開催され、上記事項につき報告があり、それぞれ承認されました。

会 務 報 告

11/16（火）	第3回新法人制度・定款諸規則検討臨時委員会	会館
11/18～19	第60回全国学校保健研究大会・学校歯科医協議会	群馬県前橋市
11/25（木）	日本青年館現場打合せ	日本青年館大ホール
	第2回予算決算特別委員会	会館
11/26（金）	第3回学術研究委員会	会館
11/27（土）	京橋歯科医師会創立90周年記念祝賀会	東京会館
12/2（木）	東京都養護教諭研究会役員連絡会	会館
	学校歯科医基礎研修会予演会	会館
12/9（木）	歯・口の健康づくり研究発表会	府中市
	第9回理事会	会館
12/14（火）	東京都教育委員会連絡協議会	うかい
12/16（木）	学校保健（学校歯科医）研修会	
	学校歯科医基礎研修会	日本青年館大ホール
1/5（水）	新年会（品川）	品川歯科医師会
	新年名刺交換会（杉並）	杉並区歯科医師会
	新年賀詞交歓会（荏原）	荏原歯科医師会
1/6（木）	合同新年会（深川・城東歯科医師会）	
		ホテルイースト21東京
1/8（土）	賀詞交歓会（東京都学校薬剤師会）	
		アルカディア市ヶ谷
	新年祝賀会（板橋）	板橋区歯科医師会
	新年賀詞交歓会（目黒）	目黒雅叙園
	新年祝賀会（練馬）	ホテルカデンツァ光が丘
1/10（月）	新年祝賀会（豊島）	ホテルメトロポリタン
1/11（火）	新春懇談会（東京都歯科医師会）	
		ホテルグランドパレス
1/13（木）	都学歯大会現場打合せ会	文京シビックホール
	第4回新法人制度・定款諸規則検討臨時委員会	会館
	第4回学術研究委員会	会館
	新年会（大森）	池上会館
	新年会（多摩地区連合会）	立川グランドホテル
1/15（土）	新年会（蒲田）	プラザ・ベア
1/20（木）	第10回理事会	会館
	第2回参事会	会館
1/21（金）	私立学校打合せ	都庁
1/22（土）	新年会（荒川）	サンパール荒川

1/27（木）	躍進の集い（東京都歯科医師連盟）	ホテルグランドパレス
1/29（土）	港区芝歯科医師会創立90周年記念祝賀会	第一ホテル東京
	新年会（東久留米）	ホテルメトロポリタン
2/5（土）	新春のつどい（東京都歯科衛生士会）	アルカディア市ヶ谷
2/9（水）	平成22年度加盟団体長会議	会館
2/10（木）	第45回東京都学校歯科保健研究大会	文京シビックホール
2/17（木）	日学歯代表会員打合せ	会館
	第11回理事会	会館
	第3回予算決算特別委員会	会館
	第7回会誌・広報委員会	会館
3/1（火）	平成22年度東京都養護教諭研究会総会	なかのZERO ホール
3/2（水）	第68回学童歯みがき大会組織委員会	会館
3/3（木）	第5回新法人制度・定款諸規則検討臨時委員会	会館
3/10（木）	第12回理事会	会館
	第1回ブロック・地区支援担当者会	会館
	第5回学術研究委員会	会館
	第8回会誌・広報委員会	会館
3/11（金）	城南七歯会連絡協議会	大森会館
3/31（木）	第78回日本学校歯科医会総会	会館
	第64回評議員会・総会	会館

【訃 報】

江戸川	鈴木 五郎	（平井南小学校）	H22. 9. 23逝去
荏原	大嶋 正明	（荏原第三中学校）	H22. 12. 3逝去
西多摩	金子 義泰	（羽村東小学校）	H22. 12. 12逝去
江戸川	岡部 俊一	（西小岩小学校）	H22. 12. 16逝去
北	田口 武彦	（赤羽台西小学校）	H23. 3. 16逝去

上記の先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。（敬称略）